

人の数だけ「当たり前前」

豊田小人権講演会「吃音」を考える

豊田小学校で11日、「なかよし旬間」に合わせて人権講演会が開かれた。この日は参観日で、全校児童130人と保護者約70人も聴講し、「吃音」について考えた。

講師は「みんなの当たり前は僕はむずかしい。知ってほしいな 吃音のこと」と題し、松本市神鷹透析クリニックの言語聴覚士の内藤麻子さん、Body Medical Center



児童の前で語る清水さん

POC代表の清水直樹さんが対談形式で子どもたちに語りかけた。

はじめに内藤さんが「吃音」について、話し始める時に最初の一言が詰まったり、引き伸ばしたり、同じ音を繰り返したり、言葉が円滑に話せないことを紹

介。「えー」知らなかったと顔を見合わせる児童の前で、清水さんがヒューマンビートボックスを披露しながら登場して驚かせた。

実は清水さんも吃音を持つ1人。子どものころに困ったことやいじめられた経験、よく聞かれる質問を承

「話をあきらめると、話さないことが当たり前になってしまふ。だから突ったり真似するのは絶対にやっではないこと」と語りかけた。

特技のビートボックスを披露したのも「みんなはあいさつや音読が『普通』にできるけど、僕はビートボックスをできるのが『普通』と清水さん。一人の数だけいろいろな『普通』。当たり前前がある」とし、「吃音のことを知ってもらったけども気持ちが悪くなる。社会に出て吃音の人と出会ったら、味方になって」と語った。